

令和6年第1回定例会

# 白馬山麓事務組合議会会議録

令和6年2月27日 開会

令和6年2月27日 閉会

白馬山麓事務組合議会



令和6年第1回白馬山麓事務組合議会定例会議事日程

令和6年2月27日（火）午後3時30分開会

1. 議会開会宣言

2. 議事日程の報告

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

会期 自 令和6年2月27日

至 令和6年2月27日 1日間

日程第3 管理者あいさつ

日程第4 議案上程、説明、質疑、討論、採決

(1) 議案第1号 令和5年度白馬山麓事務組合一般会計補正予算(第2号)

(3) 議案第2号 令和6年度白馬山麓事務組合一般会計補正予

日程第5 一般質問 7番 津滝俊幸 議員

3. 閉会

## 令和6年度第1回白馬山麓事務組合議会定例会

1. 日時 令和6年2月27日 午後3時30分より
2. 場所 白馬村議会議場
3. 応招議員
  - 第1番 丸山勇太郎
  - 第2番 切久保達也
  - 第3番 太田伸子
  - 第4番 丸山和之
  - 第5番 吉澤 学
  - 第6番 吉岡久人
  - 第7番 津滝俊幸
  - 第9番 柴田友造
4. 欠席議員
  - 第8番 宮澤正廣
5. 地方自治法第121条の規定により説明のため議会に出席した者の職指名
  - 管理者 丸山俊郎
  - 副管理者 中村義明
  - 副管理者 吉田久夫
  - 理事 上川喜一
  - 会計管理者 鈴木広章
  - 白馬村住民課長 堤 則昭
  - 小谷村住民福祉課長 佐藤孝行
  - 白馬村教育次長 横川辰彦
  - 小谷村教育課長 太田 勝
  - 事務局長 松澤 泉
  - 局長補佐 中村洋隆
  - 主幹 塩島広幸
6. 書記 総務係長 長澤秀美
7. 本日の日程
  - 1) 会議録署名議員の指名
  - 2) 会期の決定
  - 3) 管理者あいさつ
  - 4) 議案審議
    - 議案第1号（管理者提出議案）説明、質疑、討論、採択
    - 議案第2号（管理者提出議案）説明、質疑、討論、採択
8. 地方自治法第149条第1項の規定により管理者より提出された議案は次のとおりである。
  - 1 議案第1号 令和5年度白馬山麓事務組合一般会計補正予算（第2号）
  - 2 議案第2号 令和6年度白馬山麓事務組合一般会計補正予算

# 令和6年第1回白馬山麓事務組合議会定例会

開会 午後3時30分

(開会宣言)

**議長(吉澤 学)** 大変ご苦労様です。令和6年第1回白馬山麓事務組合議会定例会を行います。ただいまの出席議員は8名です。

8番 宮澤正廣議員が療養のため欠席しております。

地方自治法第113条の規定により、定足数に達しておりますので、只今から令和6年第1回白馬山麓事務組合議会定例会を開会いたします。

(議事日程の報告)

**議長(吉澤 学)** 直ちに本日の会議を開きます。議事日程はお手元に配布のとおり執り行います。

(会議録署名議員の指名)

**議長(吉澤 学)** 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。地方自治法第123条第2項の規定により、4番 丸山和之議員 6番 吉岡久人議員の2名を指名します。

(会期の決定)

**議長(吉澤 学)** 日程第2 会期の決定の件を議題といたします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日1日限りとしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

(「異議なしの声あり」)

**議長(吉澤 学)** 異議なしと認めます。よって本定例会の会期は本日1日限りと決定しました。

(管理者あいさつ)

**議長(吉澤 学)** 日程第3 本定例会の招集にあたって管理者のあいさつを求めます。  
丸山管理者

**丸山管理者** 本日、令和6年第1回白馬山麓事務組合定例会を招集しましたところ、お忙しい中にもかかわらずお集まりいただき、お礼申し上げます。

気象庁による冬の予報では、寒気の南下が弱く、暖冬となる予想が発表されていたため、スキーシーズンを心配しておりましたが、11月30日にはエイブル白馬五竜、八方尾根、杵池高原の各スキー場がプレオープンし、その後も降雪量は少ないものの各スキー場も順調にオープンをしました。インバウンド数はコロナ禍前を上回り本日まで国内外から大勢のお客様が北アルプスエリアにお越しいただいていることを大変うれしく思うところでございます。

一方で、12月16日に、白馬村黒豆沢土砂災害が発生し、宅地や道路に土砂が入り込み、家屋等の被害が発生しました。被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。村では災害対策本部を立ち上げ、被害状況の確認、避難所開設、仮復旧などを行ってまいりました。災害発生後直ちに関係機関に対して早期の工法決定や財政支援を含めた要望を行ったところ、県の事業として、早期に被災地域の二次災害を防止するため、抜本的な対策を盛り組む「災害関連緊急砂防事業」の本申請に先立ち、部分申請を行い、国土交通省に採択され、アンカーネット式構造物、仮排水路の工事を実施することになり、現在工事を行っているところでございます。

小谷村を始め、多くの方から励ましのお言葉やお見舞いを頂戴し、この場をお借りして御礼申し上げます。

また1月1日には、石川県能登地方を震源とする大規模な地震が発生し、2月13日現在で死者241人、負傷者1,184人と甚大な被害が発生しています。お亡くなりになられた方に対し、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災されました皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

石川県への支援としては、日本水道協会中部地方支部の応援要請により、断水の被害を受けている七尾市の各給水拠点に対し応援給水を行ったほか、大北地区の他市町村とともに、長野県合同災害支援チーム「チームながの」として、避難所支援にあたっているところでございます。

さて、本定例会では、令和5年度補正予算（第2号）につきましては、決算を見据えた補正予算であり、歳入歳出予算ともに1,673万8千円を減額し、総額を3億3,856万2千円とするものでございます。

総務費では、人件費の決算見込みによる減額。

衛生費では、し尿処理量増加による委託料の増額、電気料の使用実績及びし尿等下水道投入施設整備基本設計の入札差金による減額。

高校支援費では、人件費、寮の電気料の実績、支援業務の入札差金などによる減額が主なものでございます。

次に令和6年度当初予算については、歳入・歳出ともに3億7,330万円を計上いたしました。

前年度より3,590万円、10.6%の増額となった主なものは、し尿処理では、クリーンコスモ姫川の施設整備による増額、し尿等下水道投入施設整備詳細計画による負担金の増額が主なものでございます。

高校支援費では、学生寮の賄材料費と魅力化アドバイザー業務委託料による増額が主なものでございます。

以上、本日ご提案いたします議案の内容について、簡単にご説明申し上げます。

ご審議のうえご議決賜りますようお願い申し上げます。定例会開会にあたりごあいさつと致します。

(議案上程・説明・質疑・討論・採決)

**議長 (吉澤 学)** 日程第4 議案の上程、説明、質疑、討論、採決を行います。

なお、本定例会の質疑につきましては、白馬村会議規則第55条の規定により、一議員一議題につき3回までといたします。

また、会議規則第54条第3項の規定により、自己の意見を述べることができない、と定められておりますので申し添えます。

議案第1号「令和5年度白馬山麓事務組合一般会計補正予算(第2号)」の件を議題とし、説明を求めます。

松澤事務局長

**松澤泉事務局長** ただ今議題となりました議案第1号令和5年度白馬山麓事務組合一般会計補正予算(第2号)について、提案理由の説明を申し上げます。

お手元に配布してあります議案第1号をご覧ください。

今回の補正は、各事業費の見込みにより、それぞれ補正を行うものでございます。

第1条でございますが、歳入歳出予算の総額からそれぞれ1,673万8千円を減額し、総額を3億3,856万2千円とするものでございます。

5ページの歳入明細をご覧ください。

款1項1目1組合負担金2,150万4千円の減は、くみ取り量増加による手数料の増額、下水道投入施設整備基本計画の下水道事業団との協定による減額、デジタル田園都市国家構想交付金地方創生推進タイプの事業見込みによる増額が減額となる主な要因でございます。

款2項1目1手数料313万7千円の増額は、生し尿150kl、浄化槽汚泥250kl、農集排汚泥30kl分の処理量増加によるものでございます。

款2項2目1使用料186万1千円の減額は、公営塾の基本コースと2年生の大学受験コースの減額、学生寮の実績による施設使用料の減額が主なものでございます。

6ページをご覧ください。

款3項1目2デジタル田園都市国家構想交付金350万円の増額は、白馬高校支援事業の実績によるものでございます。

款6項2目1雑入1万円の減額は、高校支援事業雑入によるものでございます。

7ページの歳出明細をご覧ください。

款2項1目1一般管理費33万円の減額は、職員の人件費によるものでございます。

款3項1目1し尿処理費1,203万円の減額は、電気使用実績、下水道投入施設整備基本設計における下水道事業団との協定による減額、し尿処理量増加によるし尿収集運搬および汚泥処理委託料の増額が主なものでございます。

8ページをご覧ください。

款4項1目1高校支援費437万8千円の減額は、職員の人件費、寮の電気料、コーディネーター採用支援業務の入札差金による減額が主なものでございます。

以上、ご説明申し上げましたが、ご審議の上、ご可決賜りますようお願い申し上げます。

す。

**議長（吉澤 学）** 説明が終わりました。

議案第1号につきまして質疑を行います。 質疑はありませんか。

（「質疑なし」の声あり）

**議長（吉澤 学）** 質疑なしと認め、質疑を終結します。討論に入ります。討論はありませんか。

（「討論なし」の声あり）

**議長（吉澤 学）** 討論なしと認め、討論を終結します。

これより議案第1号の採決を行います。議案第1号「令和5年度白馬山麓事務組合一般会計補正予算（第2号）」の原案に賛成の方の挙手を求めます。

（挙手全員）

**議長（吉澤 学）** 挙手全員であります。よって、議案第1号「令和5年度白馬山麓事務組合一般会計補正予算（第2号）」の件は原案のとおり可決、決定しました。

次に、議案第2号「令和6年度白馬山麓事務組合一般会計予算」の件を議題とし、説明を求めます。

松澤事務局長

**松澤泉事務局長** ただ今議題となりました議案第2号令和6年度白馬山麓事務組合一般会計予算について、提案理由の説明を申し上げます。

お手元に配布してあります議案第2号をご覧ください。

第1条でございますが、歳入歳出予算の総額をそれぞれ3億7,330万円とするものでございます。5ページ、6ページの歳入歳出予算事項別明細書の最下段でございますが、令和6年度は前年度と比較して3,590万円、10.6パーセントの増額となっております。

7ページの歳入明細をご覧ください。

款1項1目1組合負担金、2億7,253万7千円は、組合の経常費、衛生費、高校支援費が主なものでございます。款2項1目1手数料、3,093万円は、生し尿1,500KL、浄化槽汚泥2,500KL、農集排汚泥200KL分の手数料でございます。款2項2目1使用料、2,935万9千円は、公営塾22名分と学生寮32名分の使用料でございます。

8ページをご覧ください。

款3項1目2デジタル田園都市国家構想交付金4,000万円は、「高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト」の広域連携事業によるものでございます。なお、交付金は最終年度となります。款5項1目1繰越金は、前年度からの繰越金。

款6 諸収入は、預金利子と土地貸付料などの雑入が主なものでございます。

9 ページの歳出をご覧ください。

款2 項1 目1 一般管理費1, 9 0 0 万3 千円は、節2 給料から節4 共済費までは職員1 名分の人件費、節1 2 委託料は、地方公会計システム委託料、負担金補助及び交付金は、派遣職員負担金が主なものでございます。

1 0 ページをご覧ください。

款2 項2 目1 監査委員費5 万5 千円は、監査委員2 名分の報酬が主なものでございます。

1 0 ページ・1 1 ページをご覧ください。

款3 項1 目1 し尿処理費1 億8, 9 2 9 万2 千円は、会計年度任用職員1 名と派遣職員1 名分の人件費、施設の薬品代、機器修繕代、し尿収集運搬業務のほか、下水道投入施設整備事業として実施設計業務負担金などが主なものでございます。

1 2 ページ・1 3 ページをご覧ください。

款4 項1 目1 高校支援費1 億6, 2 3 5 万円は、節1 から節4 までは、職員1 名分、会計年度任用職員5 名分の人件費のほか、学生寮の修繕費、賄材料費、寮管理業務委託料、みなし寮管理委託料、公営塾受験コース委託料、男子寮新館購入費、派遣職員負担金が主なものでございます。

款5 公債費2 1 1 万4 千円は、クリーンコスモ姫川神城断層地震災害復旧工事による償還でございます。

1 4 ページをご覧ください。

款6 項1 目1 予備費4 8 万6 千円は、歳入歳出の調整でございます。

1 5 ページから2 0 ページまでは、給与費明細書。2 1 ページは債務負担行為に関する調書、2 2 ページは地方債に関する調書でございます。

以上、主なものにつきましてご説明を申し上げましたが、ご審議の上、ご可決賜りますようお願い申し上げます。

**議長（吉澤 学）** 説明が終わりました。

議案第2号につきまして質疑を行います。 質疑はありますか。

（「質疑なし」の声あり）

**議長（吉澤 学）** 質疑なしと認め、質疑を終結します。討論に入ります。討論はありませんか。

津滝俊幸議員

**津滝俊幸議員** 7番津滝俊幸です。令和6年度の一般会計予算案について、反対の立場から討論をさせていただきます。白馬高校支援事業費の中に外部委託料として学生寮の管理料5, 740万円。他それぞれいくつかの委託料がございます。この委託料について詳細な積算根拠が見当たりません。また説明もございませんでした。地域創生交付金を使いながらやる事業ではありますけれども本年度が最後で、来年度からはすべて一財でまかな

っていかなければならないということもあります。業者にすべて丸投げというようなことでは、甚だ困るかなというように鑑みしっかりと積算根拠を示して頂くということで私は反対をさせていただきます。

**議長（吉澤 学）** ほかに討論はありませんか。討論なしと認め、討論を終結します。  
これより議案第2号の採決を行います。議案第2号「令和6年度白馬山麓事務組合一般会計予算」の原案に賛成の方の挙手を求めます。  
(挙手多数)

**議長（吉澤 学）** 賛成多数であります。よって、議案第2号「令和6年度白馬山麓事務組合一般会計予算」の件は原案のとおり可決、決定しました。

**議長（吉澤 学）** 日程第5 一般質問を行います。  
会議規則第61条第2項の規定により、本定例会に一般質問の通告をされた方は1名です。1名の方の一般質問を行いません。  
質問される議員は、質問、答弁を含めた40分の中で、質問事項を明確、簡潔に質問されるようお願いいたします。  
なお、本定例会の再質問につきましては、会議規則第63条の規定により1議員1議題につき3回までと定められておりますが、制限時間内での再質問は議長においてこれを許可いたしますので、申し添えます。  
それでは、一般質問を許します。

**議長（吉澤 学）** 7番 津滝 俊幸 議員の一般質問を許します。  
7番 津滝 俊幸議員。

**津滝俊幸議員** 7番津滝俊幸です。限られた時間の中で一般質問をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。  
まず質問に入る前に先の1月1日に能登半島で大きな地震があり災害で亡くなわれてしまわれた方、または災害にあわれたかた、そのかたに対してお見舞いを申し上げるとともに、哀悼の意をささげたいなというふうに思います。  
私達白馬村も先に神城断層地震、小谷村もそうですが、ありまして大変な災害を受けました。これから私達も被災地の皆様により沿った形で支援をしていくというようなところでそれぞれにお願いしたいというようなところでございます。  
白馬高校の支援事業について一般質問をさせていただきます。  
白馬高校への支援事業は、平成25年より10年間、継続的に行われてきました。支援の目的は、少子化による生徒数の減少により、県の高校再編基準に抵触し廃校の危機に直面したため、人口流失や過疎化を食い止め、白馬小谷の地域高校として存続させる事が目的です。

その対策として、「高校の経営・運営に参加する地域案」を県教委へ提出し、全国初となる首長が学校運営に参画するコミュニティー・スクール（学校運営協議会）に指定され、国際観光科を新設し、地域ぐるみで支援をしていくことになりました。具体的には、生徒の全国募集、寮や下宿の整備と運営、公営塾の開設などです。

そこで、10年間支援した効果と今後の方向性について伺います。

- ① 高校再編基準の内容及び当校は基準値を満たしているか。
- ② 全国募集の状況と今後の見通し、学生寮の管理と耐震対策について伺います。
- ③ 地域に魅力的な高校が存続すれば、教育環境が充実し、Iターン・Uターンも増加し、人口流失がくい止められ地域が活性化していくとされています。その効果と当該校の魅力とは何かを伺います。

**議長(吉澤 学)** ただ今の質問に対し答弁を求めます。丸山管理者

**丸山管理者** 白馬高校支援事業について津滝議員より3つのご質問をいただいておりますので順次ご答弁申し上げます。

最初に高校再編基準についてお答えいたします。

白馬高校の高校再編基準については、長野県教育委員会で策定した、高校改革の再編・整備計画【三次】が令和5年1月16日に決定しており、この再編に関する基準等については、令和5年度が初年度となります。

現在の白馬高校は、中山間地存立校の位置付けであり、その基準は、在籍生徒数が120人以下の状態、もしくは、在籍生徒数が160人以下かつ卒業生の半数以上が当該高校へ入学している中学校がない状態が2年連続した場合には、再編対象として、①他校との統合、②地域キャンパス化（分校化）、③中山間地存立特定校の指定、④募集停止のいずれかの方策をとるとしています。

白馬高校の状況は、令和5年5月1日現在の全校生徒数が136名で、令和5年8月の白馬山麓事務組合定例会の閉会時の挨拶で申し上げましたが、高校再編基準を下回っているという大変厳しい状況でのスタートとなりました。厳しい状況の中、関係者による努力の成果を期待しておりますが、仮に再編基準に該当した場合は、地域との協働を「中山間地存立校」を適用した学校よりもさらに強化することにより、募集定員40名でも単独で高校を存続させる道を探る「中山間地存立特定校」など、県教育委員会と地元が今後検討していく流れとなります。

県教育委員会では、特色化・魅力化など、県立高校の現状と課題について「特色ある県立高校づくり懇談会」を開催しており、生徒や地域の期待に応え特色ある県立高校とするため、教育研究関係者2名、教育関係者3名、産業界関係者3名、地域連携関係者2名、保護者1名、県立高校関係者2名、合計13名の方から幅広く意見などを

求め、新たな学びや学校づくりのほか、北部、軽井沢、小海、富士見、阿智、阿南、蘇南、白馬といった県境の高校は、「少子化による小規模化に拍車がかかり、再編基準該当に伴う高校再編により高校がなくなり、当該市町村の衰退につながりかねないという課題がある。小規模校は、生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな支援が可能、地方創生、地域活性化の観点からも重要な役割を果たすことが可能である。」といった意見が出されており、そうした意見を反映させることを目的に進めていますので、これまで同様に県教育委員会と連携して参ります。

次に全国募集と学生寮の管理、耐震対策についてお答えします。

平成 28 年度に始まった全国募集による、県外生の状況は、平成 28 年度 13 名、平成 29 年度 18 名、平成 30 年度 15 名、令和元年度 22 名、令和 2 年度 11 名、令和 3 年度 8 名、令和 4 年度 5 名、令和 5 年度 10 名という状況です。令和 6 年度の状況は、前期選抜が終了した時点で県外者が過去最高とならぶ 18 名合格し、さらにあと数名が受験希望しているということをお聞きしています。

全国募集活動を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症という、今まで経験したことのない状況下でオンライン説明会を中心に募集活動を行いました。感染症などの影響からか、県外生は、令和元年度 22 名に対し、令和 4 年度には 5 名まで落ち込みました。令和 4 年度から対面での募集活動が行えるようになり、令和 5 年度の新入寮生は 17 名までに回復し、国際観光科の 1 年生も 33 名となりました。こうした状況から、令和 5 年 11 月 24 日に小谷村長とともに県教育長と懇談を行い、コロナ禍で募集活動が思うようにできなかったことから、再編基準の延長をお願いしてきたところでございます。その際に、県教育長からは前向きに検討しているが、他校の状況もあり慎重に行うという回答をいただきました。

令和 6 年度入学者選抜の前期試験では、30 名の定員に対し、42 名が受験するという他地域と比較しても非常に喜ばしい状況ですが、一方、普通科は、募集定員 20 名に対し、合格者 7 名と非常に苦しい状況です。直接影響のある大町市、白馬村、小谷村の受験生が前年度より 23 名減少していることや、大学受験を目指して進学校を希望している生徒が多くいることが普通科の受験生が減っている要因と推測しております。

大学進学を目指している中学生が多いことから、令和 3 年度から公営塾の中に大学受験に特化した特進クラスを設けた取り組みを行っています。その効果もあり、令和 4 年には一般受験で日本大学と関西外国語大学に合格する塾生を輩出することができ、さらに今年度は、目標としていた東京都内の難関私立大学いわゆる G M A R C H（ジーマーチ）のひとつである立教大学に合格した塾生のほか、日本大学と東洋大学に合格した塾生を輩出するなど結果も出ていることから、白馬高校に進学しても大学に合格することができることを地元中学生に周知して普通科の充足率を上げる取り組みを行って参ります。

現在の大北管内小学校 1 年生の生徒数は、令和 5 年度の中学 3 年生より 99 名少ない 318 名と、今後ますます少子化が進むことから、地域の最高学位である白馬高校の存

続は、地域振興、地域教育の充実にとって無くてはならないものであり、今後も全国募集は必要不可欠であります。

そうしたことから、「特色ある県立高校づくり懇談会」の検討結果を注視しながら、全国募集を開始した当初の目的である、グローバルな人材育成を行ない、地域に戻り、地域を支えていただけるような生徒を育てる取り組みを行って参ります。

続いて、学生寮の管理は、高校の関わりが大変重要であります。コロナ前の状況では、高校と学生寮の協力・連携が取れていたかという点と必ずしもそうではなかったと認識しております。生徒指導については、専門知識がある元教員の方に舎監としてお願いし、そのサポートを舎監補助として会計年度任用職員を採用してきました。令和4年度までは、点呼の際、舎監補助が寮生に対して生活指導を行う体制でしたが、複数の職員で行っていたこともあり、生徒との関係性、職員同士の関係性がうまくいっていませんでしたと報告を受けています。

令和5年度から点呼時の生活指導は舎監が行い、生活指導を切り離れた生活サポートや経費削減を行うことを目的として寮管理業務として外部に委託しています。それまでは、事務局職員が深夜を問わず寮対応に追われるという状況が続いておりましたが、外部委託初年の今年度は大きなトラブルは無いと報告を受けています。

しかしながら、県立高校の寮として運営しておりますので、以前から県に要望しているように、寮の運営は県が行い、日常管理や給食などを地元が支援するという体制が一番望ましいと考えておりますので、先程答弁した「特色ある県立高校づくり懇談会」の中では、全国募集の課題について話し合われていますので、そうした状況を踏まえ、知事や県教育長に学生寮の運営について、改めて働きかけを行って参ります。

続いて、学生寮の耐震については、女子寮の旧法政大学セミナーハウスについては、平成3年1月に新築された鉄骨造3階建てのため、耐震についての問題はありません。

一方、男子寮については、平成31年2月に行った組合議会定例会に提出した議案第3号「平成31年度白馬山麓事務組合一般会計予算」内で津滝議員より質問があり、当時の理事であった藤本副村長の答弁では、「旧はくば荘については、震度6強以上の地震が起きた場合には倒壊する可能性が高いという判定がされており、いわゆる耐震基準を満たしていない。生徒の安全というところを重視して、旧はくば荘を居室する所としては使っていない。ただし風呂・食堂の部分に関しては、当面の間、引き続き使用する。」とお答えをしています。

現在は、玄関と舎監室、風呂の部分に関しては使用しておりますが、食堂と居住は使用していません。高校支援事業の基本計画では、令和9年度の施設リース料が終了する時期を踏まえて、今後の施設整備などについて検討することになっています。今後の施設整備については、令和6年度第1回目の学校運営協議会でご意見を頂戴し、令和6年度中に今後の施設整備について、現在の場所に増築するのか、新たに寮を整備していくのかなどを検討していく考えでございます。

次に地域活性化の効果と魅力化についてお答えいたします。

文部科学省が2019年度にまとめた「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」では、「出身市町村へ親しみを持つ者、高校時代までの間に地元企業を知っていた者は、将来的に出身市町村へのUターンを希望する割合が高い傾向にあるなど、自らの地域を知ることが、将来的なUターン、そして、地域の将来を支える人材の確保に繋がる可能性がある。これに加え、地域への課題意識や貢献意識を持ち、将来、地域ならではの新しい価値を創造し、地域を支えることができる人材の育成に向けて、高等学校の段階で地域を知り、親しむ機会を創出することが重要である。中高生等の早い段階から職業意識の形成を図り、地元で暮らすことの魅力や地元企業の魅力等が若者に浸透するよう地域社会全体で取組を推進すること。」として、2019年に閣議決定がされています。まさに、白馬高校が行っている時事問題、デュアル学習、コミュニケーション英語、観光などの授業は、地域を知り、問題意識を持ち、新しい価値観を創造する授業を行っています。最近では、時事問題授業の中で、廃線危機にある大糸線を何とかしたいと、小谷漬をモチーフにしたキャラクターを考案するなど地域を支える人材育成に向けて取り組みを行っています。

県外から白馬高校に入学し、この環境に魅了され就職した生徒は、平成28年度から昨年度まで、私が知る限り両村内に観光関連3名、土木2名、その他2名の7名が就職しています。

白馬高校の魅力は、外国から大勢のお客様が訪れるほど素晴らしい自然環境のもと、観光に携わる地元の方々から、座学だけでなく、すぐにフィールドで体験・体感できることが一番の魅力だと思います。

加えてこれまで以上に、地域課題のマッチングを効果的に行うためのコンソーシアムを構築し、その役割を認識し、生徒の興味・関心に応えるため、その機能を最大限に発揮し、生徒の探究的な学びにつなげていくため、コンソーシアムが一丸となって取り組むことが必要です。

閣議決定もされているように、これからは18歳まで、地元の高校に通い、地域の魅力が浸透するような高校となるよう県教育委員会とも連携しながら人材育成を進めて参ります。

以上ご答弁を申し上げます。

**議長（吉澤 学）** 答弁が終わりました。再質問ありますか。津滝俊幸議員。

**津滝俊幸議員** 再編基準は今も県教委の方では同様の内容であるというような答弁だったかと思います。白馬高校についてはすでに基準値に底触した状態ということで全校生徒が少なくなっているというような状況なんです。先前の学校運営協議会の議事録がホームページに載ってまして、私が質問している内容と全く同じ内容を丸山管理者のほうから県教委のほうに聞いております。たしか本年度の第1回目だったかなと思いますけども。すぐにはですね、県教委のほうもそれで底触しているから、たとえ

ばサテライトにするとか募集停止にするとか、統合にするとかゆうような何か措置をするということは考えてないということですし、この地域が全国に先駆けて学校運営協議会、コミュニティースクールに首長が参加してくということが高く評価してくれているというようなこと。もう1つはこの国際観光科が地域に根差した授業であるということ。そういったことが大きく評価されているところかなというふうに考えています。さきほど答弁のほうでも、今すぐ何か対応をしなければならないかというようなことはないという話もありましたし、また白馬村長、小谷村長2人あわせて県の教育委員会のほうには是非この基準値をもう少し延長してほしいというようなことも伝えてもらっていますので、引き続き県のほうにはですね、村だけではどうしようもないということは当たり前のことではありますので、是非そこのところを上層部のほうとしっかりとコミュニケーションをとってご対応願いたいなというふうに思います。

そういった中で全国募集ですが、コロナという非常に不幸にみまわれたという経緯がありますけども本年度は幾分それが改善されてきたというようなこと。また事務方をはじめ地域の皆さんが危機感をもってそれに接していたというようなことの成果として本年度はかなり募集があるというふうに伺いました。ただし学生寮、耐震のことについては全国から受け入れるためには、どうしても必要な改善点かなというふうに思います。ここのところを改めて伺いますんですけども先ほど一般会計のところでも私申し上げましたけれども、今は国からデジデンのいわゆる交付金が入ってきていますので、4,000万円ですか。それを使いながら維持しているということになるんですけど、今後この学生寮とそれから対策考えていくというよな話もありましたが耐震ですね、今使っていない部屋もあるということでもありますけれど、これはどのようにしていくのか伺います。

**議長（吉澤 学）** ただ今の再質問に対し答弁を求めます。

松澤局長

**松澤泉局長** 学生寮についてお答えいたします。議員おっしゃられたとおり耐震については旧白馬荘の部分については耐震がないということで調査結果も出ている状況から今現在は食堂と居室については使用しておりません。ただそのままにしておくというわけにはいきませんので、令和6年度中に管理者の答弁にもありましたとおり、第1回目の学校運営協議会の中で生徒の募集も含めた今後の寮の在り方、またみなし寮の在り方について意見を頂戴しながら6年度中にはある一定の方向性をもって令和9年度のリースが終了する時点で寮をどうしていくのかということを進めていきたいというふうに考えております。以上でございます。

**議長（吉澤 学）** 他に質問はございませんか。

津滝俊幸議員

**津滝俊幸議員** そうするとですね、ある一定の方向性を出すということになるとすればですね、潰して建て替えるか、それとももう一方で下宿というそこを潰して他へ入っていただくという正直言ってこの2択ぐらいしかないのかなと私は思っているんですね。

これは管理者にお伺いするんですけど両方の村そんなにお金がない中で、立て替えるってのはなかなか非常に大変なことなのかなと。過去にですね我々も協議しましたけれども高校の校舎の近くに建てるというような話もあったりなんかしました。そこらあたりどのようにお考えなのかももう一度お伺いします。

**議長（吉澤 学）** ただ今の質問に対し答弁を求めます。

丸山管理者

**丸山管理者** 津滝議員おっしゃるようにやはり建て替えとなると資金としては非常に厳しい状況がありますし以前試算というところでも出ましたけれども高額というところがありますのでこれで交付金が終わる中でそれをどうしていくかということとは大きな課題だというふうに思っています。一方で先ほど下宿という話もできましたけれども、まずは県の、高校に対する方向性というところを受けまして我々もその先で生徒の状況も含めて考えていかななくてはいけないなというふうに思っていますので。まずは県の方向性というところを受けてからというところにはなろうと思いますが、遠くない将来しっかりと考えていかななくてはいけない課題だと思いますので、ちょっと現段階でこういった建物をつくる、もしくはつくらずにこうするというお答えはできませんけれども、しっかりと財政面も考慮しながら検討していかなければいけない課題だということは認識しております。

**議長（吉澤 学）** 他に再質問はありますか

津滝俊幸議員

**津滝俊幸議員** よろしくお願ひします。

全国募集をしていかないとですね もう一方ではこの地域相当の少子化にみまわられていて実際に中学生の数が少なくなっている、もっと言えば小学生そういった数もどんどんと少なくなっているというような状況感があります。

選択肢がなくなっていくということは、子供たちにとっては不幸なことになってしまうかなというふうに思っていますので、全国募集はもう必須なことだと私は考えておりますし、今後も続けていくというような答弁があったかなというふうに思うんですけども、それをするためにはどうしても寮のことをどうするかという問題がくっついてくるということになりますので、慎重なご検討を願いたいなというふうに思うところです。

それでですね、もう一つなんですけど、3番目が一番大きな問題なのかなというふう

に私は思ってまして教育環境を充実して地元子どもたちに帰ってきてもらってですねここに住んでいただくことがこの高校支援の最大の目標であり課題なのかなというふうに思います。白馬村もですねインバウンドが非常に政策がこうをそうしてですね人口がいったん下がったものがまたコロナを過ぎてから上がってくるというような状況に今なりつつあります。また、小谷村の方もですね観光を中心にですね非常に今、今シーズン活況に賑わしているというような話も聞いています。こういったことを利用しながらですね、人口の流失を食い止めていかないとですね、やっぱり高校も存続させることができないのかなというふうに思います。そこでですね、この高校に与えられた使命としては、先ほど村長もおっしゃってました、管理者もおっしゃっていましたが、世界に通用する地域に根ざしたグローバルな人材をつくっていくっていうのはなしになってまして、まあこのグローバルというのがどうゆう意味なのかということなんですけども 非常にグローバルに、世界感をもって色々考えることができ行動ができる人材ということのようであります。グローバルとローカルをあわせた造語ということになっているようでもありますけども、こういった人材というのは、今先ほど、管理者の方から7名帰ってきているというはなしなんですけれども、どうでしょう率直にできているというふうにお思いでしょうか、そこらあたりどのように感じていらっしゃいますでしょうか。

**議長（吉澤 学）** ただ今の質問に対し、答弁を求めます  
丸山管理者

**丸山管理者** そうですね7名という数が多いか少ないかというところはとらえ方それぞれだと思えますけれども、やはりコロナ禍というところがあったことにより停滞してしまった部分があるということはやはり否めないというふうに思っています。それ以前は特にインバウンドの方たちを相手にした、いわゆるフィールドワークといったところですか高校生ホテルまた高校生レストランといった白馬高ならではの活動が非常に盛んにおこなわれてまして、対外的にもそこが魅力として多く発信されてたわけですけれども、そういったところが一旦コロナ禍でなくなってしまって今また再出発といったところとなっておりますので。ちょうど昨年になりますかね高校生ホテルに関してはまた再び再出発してメディア等でも取り上げられ始めていますので、この冬これだけまた国内外から大勢のお客様きてますので是非フィールドワークといったところを以前のように充実していただけると私の方としてもありがたいなというふうに思っておりますが、やはり以前に比べると少しくコロナ禍というところを経験したことにより勢いという意味で言うと少し失速してしまった部分があるというのは否めないというふうに感じております。以上です。

議長（吉澤 学） 他に再質問ありますか

津滝俊幸議員

津滝俊幸議員　そうですね。この7名がほんとに多いか少ないか。この人たちが地域でまたどんな活躍するかどうかというところに大きな期待よせるところでありますし、これからはどんどんこうゆう人間が増えていっていただくことにやっぱり期待をするしかないのかなと思っているところです。当然企業の側、ここで経営していらっしゃる皆さんもですね、地元の高校生をですね、しっかりと受け入れられるような体制そういったものもこれから必要になってくるかなというふうに思います。時間の関係もありますけども当該校の魅力ですよ。やっぱりこの山岳景観が素晴らしいというように、親御さんがこのところで子供が育ってほしいというようなこともあって、こちらに連れてくるとか、また本人が山が好きだから来たいというような話もあったりするんですが、そうはいつでも、高校自体のですね魅力がないと生徒はやっぱり集まらないと思うんですよ。この魅力づくりのためにですね両村長が入られた学校運営協議会というものがあって、コミュニティースクールを形成してるわけなんですけども、実はこのコミュニティースクールなかなか内容がみえてなくてですね、議事録は確かに県のホームページ等で載ったりなんかしてるんですけど、たとえば議事録が載っているだけで、そこに掲載された資料、皆さんが協議なさった資料なんかは載ってないんですよ。ぜひこういったものを載せていただきたい。それから地域のなかではすでに学校の中で、丸山村長も以前講師として入られたりなんかしてますが、地元の方がですね、やっぱり講師の先生となってですね、高校と一緒にしながらこんな魅力を、地域の魅力を発信してみたいなっていうことを重ねておやりになられたりなんかしているんですけど、私はまだ更に必要だと思っているんですよ。これから魅力づくりのために考えていらっしゃるのかどうかというところをお伺いします。

議長（吉澤 学） ただ今の質問に対し答弁を求めます

丸山管理者

丸山管理者　前段の議事録については情報開示というところから、より見た方に当事者意識をもっていただくという意味でも細かな資料等掲載できるよう検討していきたいというふうに前向きにとらえました。

また今後の魅力化というところですけども、先ほどらいいっております特にインバウンドを中心とした国際的な観光地ですので、実際にそういった環境に触れるというところも大きな魅力でありますので、これまで以上に力を入れていくところもそうなんですけど、昨今気候変動に対するアクション、いわゆるゼロカーボン施策に関して白馬高校は非常にフューチャーされている現状があります。特に白馬村自体も早くに気候非常事態宣言、またゼロカーボンシティ宣言をだしたというところもありまし

て、そちらが白馬高校の皆さんの気候変動マーチがきっかけでおこなわれたというところも大きく取りだたされてますので、そういった角度からのアプローチというのはさらに魅力化につながるのかなというふうに思っております。

ちょうど、白馬村のほうでも環境専門人材というところが入りましたので、そことの連携も含めまして、いわゆる国際的な観光地としての魅力に加えて環境でも意識が高いというところで更に魅力が出せるようなプロジェクトに取り組んでいけるとより魅力が上がっていくかなというふうに感じております。

**議長（吉澤 学）** 津滝議員

**津滝俊幸議員** はい。やはりあの地域の魅力をですね、最大限に生かしていただくということとはとても私は重要だと思っております。高校の魅力化イコール地域の魅力だと私は思っています。ですのでやっぱりこの地域の魅力をしっかり作っていくことが高校の魅力にもなっていくことにつながるので、高校だけをよくすればいいというわけでは決してないということだと思います。ただやっぱり、学力ですとかその先の進路、さらにはスポーツ、たとえば白馬高校はスキーの伝統のあるところを持っていますので、こういったところをですね。魅力づくりに貢献できるように努力を重ねて行っていただきたいなと思います。

最後の質問の方になりますけれども、議長あと5分ぐらいですかね、残っているの。最後の質問になりますけれども、そうはいってもですね少子化という大きな波は、これはもう避けて通れない話ですし、何か対策が本当にあるのかということ、なかなかこれ難しいことなのかなと思います。生徒の減少していくためにいくら全国から募集しても、この地域に育っていく子供たちがいないとゆうことになれば、やっぱりこれはこれで考えなければいけない。それからもう一つはやっぱりお金の問題だと思います。さきほども申し上げましたが国から来る交付金は今回で取り合えず終わりになります。今後この補助金的なもの交付金的なもの、そういったものがいれられるのかどうか。それからここが一番大事なところですが、エンドレスでこの高校の支援をやっていくというわけにはいかないと思います。たとえば先ほどの全国募集したい、そのためには寮をつくらなければならない。じゃあ多額な金額がかかる。じゃあ両方の村にそれだけのお金を用意できるか。なかなか難しいと思います。やっぱりそうはいってもこの支援というのをいつまで続けるのか。もっと言えば、ここまでいったらこの支援はできない。ここぐらいまでだったら支援はできる。そういったものをやっぱり行政側としては持たなければいけないんじゃないかなというふうに思います。気持ちだけでは前へは進めないとは私は思っています。そこらあたり管理者としてどのようにお考えになっているのかお伺いします。

**議長（吉澤 学）** ただ今の質問に対し答弁を求めます。  
丸山管理者

**丸山管理者** 津滝議員おっしゃるところ、まさにそのとおりで、現実としてそういった未来がまっているのは我々もひしひしと感じておりまして、対策をとっていかなくてはいけないという中で、ただやはりなんとか残せないかというところをいま模索しているところではあるんですけども、やはり財政という問題は近い将来でできますので、とくに交付金に関しましては、来年以降どうするのかというところで、現段階でこのお金がというのは実際のところ無いのが現状でありますので、それに関しては新たな財源等なにかないかということこれから研究していきたいと思っておりますし、また先ほど答弁の中で申し上げました通り、まずは県の方で寮等に関してはやっていたのが本来でないかというところは引き続き県教委の方とも話していきたいというふうに考えております。

そのうえで県の回答をまずはいただいて、やはりそれでもこちらでということになった場合には対策を考えていかなくてははいけませんので、現段階でここがリミットという具体的なことは言えませんが、しっかりと財政状況を勘案して、さらにあらたな財源等があるかとうところも研究したうえで、答えを導きだしていかなくてははいけないというふうに考えております。以上です。

**議長（吉澤 学）** 津滝議員 あと2分です。

**津滝俊幸議員** 質問はこれで終わりにいたしますけども、地元の子どもたちがいける学校でなければ私はいけないと思っています。それにはしっかりと魅力をつくらなければいけないと思っていますし、1つのクラスの中に人数が少なくなっていってしまうとやっぱりこの協調していく 協調性が欠けたりとかですね、集団的な脳力が欠けていってしまったらなんかします。

この思春期の一番大事な時期にですね地元で過ごすということが私はとても大事なことだと思いますので、ぜひ良い方向を見出せるように、みんなで知恵を絞りながらいきたいなというふうに思いますので、管理者はじめ議員の皆様とまた色々策を練っていききたいなというふうに思っていますのでよろしく願いいたします。

一般質問を終わります。

**議長（吉澤 学）** 以上で、7番 津滝 俊幸議員の質問は終結します。

以上をもちまして、本日の定例会はすべての日程を終了しました。

ここで最後に管理者のあいさつをいただきます。

丸山管理者

**丸山管理者** 令和6年第1回白馬山麓事務組合定例議会閉会にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日の定例会に上程いたしました案件につきましては、全て原案どおりご

承認をいただき、ありがとうございました。

今後の組合業務につきまして、し尿処理業務では、し尿等下水道投入施設整備事業として、し尿等下水道投入施設実施設計を行い、計画通りに事業を進めて参ります。

高校支援では、令和6年度で9期生を迎えることとなります。コロナ禍で落ち込んでいた県外生も昨年度から増加傾向にあり、受入体制を整えていく必要がありますが、令和6年度でデジタル田園都市国家構想交付金が終了となるため、より一層経費削減に努めつつ、魅力を創出することで地元から入学して頂けるよう学校と協力しながら周知して参ります。

議員の皆様におかれましては、体調には十分お気をつけいただき、無事に3月の定例議会の終了を迎えることをお祈りいたします。

以上、簡単ではありますが、閉会にあたってのごあいさつとさせていただきます。大変ありがとうございました。

**議長（吉澤 学）** 大変ありがとうございました。

以上で、令和6年第1回白馬山麓事務組合議会定例会を閉会といたします。大変ご苦勞様でした。

閉 会  
午後16時32分

以上会議のてん末を記載し、地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

令和6年 2月27日

署名議員      議会議長

署名議員      4番

署名議員      6番